

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100230
法人名	有限会社コミュニティハウス
事業所名	グループホーム・コミュニティハウス北条
所在地	松山市北条588番地3
自己評価作成日	平成27年9月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・開設後より少しずつ築いてきた地域とのつながりを大切にしている。今年度は防災に関しての地域との連携がスムーズに図れるように、地域の自治会とも協力体制が結べるように活動している。また、ボランティアの受け入れを積極的に行っており、大学生・中学生・一般の団体など多方面にわたる外部からの支援をいただくことができている。</p> <p>・施設には看板犬の芝犬「さくら」がおり、また金魚を飼ったりしながら、動物とのふれあいを日常生活の中に取り入れて、利用者と職員が餌やりを行い大切に育てている。</p> <p>・行事を多く取り入れて、1年を通じて季節を感じていただけるようにしている。（花見・納涼祭・花火・いも炊き会・クリスマス会・餅つき・お誕生日会など）</p> <p>サービスの枠にとらわれることなく、利用者・家族の様々な希望要望に柔軟に対応している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●近所の方からは、事業所の草取りや愛犬さくらの散歩、餌やりの協力もある。秋祭りは、2ヶ所の地区から神輿・山車が来てくれて、事業所が休憩場所にもなっている。子供神輿には90名ほどの子供たちが来るため、利用者も一緒にお菓子を配っている。</p> <p>●温泉の好きな利用者の希望で、近くの温泉に出かけて、大浴場で職員と一緒に入浴したこともある。又、車椅子の方は、家族風呂を利用して支援した。海を眺めながら温泉を楽しめるため、利用者にも好評のようだ。</p> <p>●毎年花見は近隣の海岸沿いの公園にお弁当を持って出かけており、釣りの好きな男性利用者と職員は、釣り竿を持参する。日常的には、近くのお地藏さんをお参りに散歩したり、重度の方は庭やベランダに出て、外の風やキンモクセイの香りに触れたりできるよう支援している。スーパームーンの日には、ベランダに出てお月見をした。利用者は新聞広告やテレビをみて外出希望があり、できるだけその日に出かけられるよう支援している。動物園や観劇に出かける時は、ご家族が利用者や職員のお弁当を作ってくれる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム コミュニティハウス北条

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 井口 飛鳥

評価完了日 平成 27 年 9 月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) ホームの理念を掲げ、玄関・リビング・事務所等に掲示して職員だけではなく外部からのかたにもご覧いただけるようにしている。常に初心を忘れないように、勤務中にも理念を再確認しながら「理念に沿えているか」「実践できているか」を、毎日繰り返し考えることが必要だと考えている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に「利用者とともに泣き笑い怒り悲しめる存在であるようにともに生きていきます」と理念を作っている。施設長は「人は楽しいだけの生活ではない。自分で動けないもどかしさを怒りとして表現する利用者もおられる。受容するだけでなく辛い気持ちと一緒に怒る、多様な感情を持ち利用者を理解して欲しい」と職員に話している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 利用者様が地域とつながりを持っているように、まずは職員が地域との交流を積極的に図るよう心がけている。定期的に地域の清掃や資源ごみの回収活動に参加し、地域の中での「グループホーム」の存在を理解していただけるように努めている。また、地方祭や亥の子も、参加を楽しみにしている地域行事となっている。継続的な活動の結果、近隣の住民のかたから気軽に声をかけていただけるようになり、畑で栽培した野菜をおすそ分けしていただくことや、ホームの庭の手入れをしてくださるかたもいらっしゃる。また、看板犬「さくら」を散歩に連れて行ってくださるなど、継続的にいろいろな地域住民のかたとの交流を持つことができるようになっている。</p> <p>(外部評価) 地区の通常総会に参加したり、資源ゴミ回収等、継続的に地域活動に参加している。近所の方からは、事業所の草取りや愛犬さくらの散歩、餌やりの協力もある。秋祭りは、2ヶ所の地区から神輿・山車が来てくれて、事業所が休憩場所にもなっている。子供神輿には90名ほどの子供たちが来るため、利用者も一緒にお菓子を配っている。中学生の福祉体験・幼稚園児の訪問・子供たちのボランティア団体等を受け入れている。今夏の納涼祭は、聖カタリナ大学の学生のボランティアを受け入れた。職員は今後さらに、「外部資源」を活用して、「支援の輪を広げたい」と話していた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に地域の民生委員や自治会長、家族様等に参加していただき、地域での高齢者の困りごとなどをお伺いしながら、自分たちの知識や経験を交えて意見交換している。また、玄関を常にオープンにしており、道すがら施設内がいつでも覗けるようにしている。地域のかたに、わたしたちを「見て」また「雰囲気を感じて」いただけるように工夫している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1度開催している。地域のかたやご利用者様や家族様が参加していただき、ホームの活動や取り組みなどを資料や写真を交えながら話し合いを行っている。参加者のかたからいろいろなご意見や情報をいただける貴重な機会となっており、サービス向上に向かう糸口となっている。今後も話し合いの中の意見を迅速に反映できるように努めたい。</p> <p>(外部評価) 今年度、会議には、家族会会長や自治会長が新たに参加している。会議では事業所の行事・利用者の様子を報告している。事業所の防災マニュアルを自治会長にお見せして、自治会の自主防災組織と連携を図れるように話してもらった。施設長は、会議参加者を増やして「事業所の中まで来ていただき、どのような利用者・職員がいるか知ってほしい」と話していた。</p>	<p>今後は、警察関係者等の参加も検討している。民生委員から「地域の独居の方は不安に思っていることがある」「在宅介護について情報が欲しいと思っている方もいる」との情報を得ており、今後、会議を通じて事業所の専門性や有用性を活かした地域とのつながりづくりをすすめてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域会や運営推進会議を通じて担当職員との関係作りが出来ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者からは、感染症の流行状況や注意喚起がある。地域包括支援センター主催の北条サービス調整会議には管理者が参加して、他事業所と意見交換等をしている。センター担当者には、避難訓練時に利用者の見守り役になってもらい、課題等についての意見を聞いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の勉強会を年に1度は行っている。また、接遇について学ぶことが身体拘束ゼロへつながると考え、日頃の接遇のありかたを常に考えるようにしている。身体拘束ゼロへ向けての指針を掲示して、具体的な禁止行為については各職員がいつでも確認・理解できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 施設長は、新人職員に「利用者の自由を奪わない、利用者を尊重して介護する事」と話している。又、6月の法人学習会時には、「拘束について理解するためには、接遇が重要」という考えのもと、「お年寄りを大切にすること」「利用者のことを考えた支援の大切さ」について話した。日々のケアの中では、介護方法や声かけ等気になることがあれば、職員同士で話し合いの場を持っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待についても勉強会を開催して各職員それぞれの考えを意見交換し、学ぶ機会を設けている。虐待とそうでない場合の見極めについては難しく、勉強会でも皆が悩むことが多いため、勉強会を行うことにより、なにげない日頃の接遇の中でも、自分が行っている行為が虐待につながるのではないかと考えさせられることも多く、虐待について話合う機会をより多く作っていくことが虐待防止につながると考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加するなどして制度の理解を深めることができるよう努めている。現在は後見人制度等を利用されている利用者がいないため職員はなかなか身近に感じる事ができていない。繰り返し勉強会を通して学ぶことを継続し、権利擁護の重要性を考え、制度利用が必要なときのための準備をしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の前の段階(見学時等)から、できるだけ不安を取り除けるように疑問点や質問事項については時間をかけて説明を行っている。契約・解約の際の署名・捺印の際は、説明を十分に理解していただいたことを確認の上、署名や捺印をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 1年に1度は家族会総会を設け、より多くのご家族からの意見を承り、運営に反映できるように努めている。また、面会時などには職員が積極的にご家族とのコミュニケーションを図ることで、時間をかけて信頼関係を築き、意見や要望を聞きだしやすい雰囲気作りを行っている。 (外部評価) ご家族の来訪時には、写真を見ながら利用者の外出時や日常の様子を報告している。利用者をご家族に話したこと等について聞き取り、日々のケアに活かしている。今年の家族会には、7名の参加があり、職員も同席して行った。納涼会の利用者の景品を家族会費から支出しているため、管理者は、事業所行事へのご家族の参加を呼びかけたいと話していた。今年度は忘年会を企画したいと考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 月に1度職員会を開催している。代表者・施設長・管理者が出席して職員と話し合う場を設けている。サービス・質の向上についてお互いからの提案があれば職員会で検討の上、反映できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員はその都度、気になること等をお互いに話し合いながらケアに取り組んでいる。職員は「認知症について学習を深めたい」という意欲があり、施設長が、内・外部研修の情報を提供してサポートしている。利用者・ご家族・職員での旅行が休止となっているが、職員からは、再開したいという希望が多く、管理者は、家族会と相談しながら決めたいと話していた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 代表者は年に個人面談を行い、職員の状況把握に努めている。また、それ以外でも職員の勤務の様子により気になる点があれば随時個別面談を行い、やりがいを持って働けるように環境や条件の整備・体調の管理等を行っている。代表者や管理者が職員の状況をこまめに把握することで働きやすい環境を整えることができるように努めている。昨年度から当法人において、事業所間職員の親睦・交流・健康管理を増進できるようにスポーツ活動を取り入れている。フットサル部を設立し、月に1~2回程度の活動をしている。活動を通して仕事でのストレスを解消でき、いろいろな職種の職員間の親睦が図れるなど、職員にも好評である。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 月に1度の施設内勉強会に加え、今年度からは月に1度法人内での研修を取り入れて職員のスキルアップを行っている。研修の機会をより多く持つことで、個々のモチベーションを上げる事ができ、意欲的に業務に取り組んでいる。また、研修で得た知識を生かして空き時間などにも問題点の確認や対応策を話す機会もできた。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 月に一度北条地区の地域会が開催されており、可能な限り参加をしている。地域会では毎回事業所持ちまわりの勉強会も行われているため、他事業所のサービスや日々の課題について知る事ができ、共に学びながら切磋琢磨し、交流を図っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 情報も必要だが、まずは直接お話しをして本人の声を聞くようにしている。何を一番望んでいらっしゃるかを知る事が大切だと考えている。また、不安な事柄に関しては、本人の訴えにしっかりと傾聴し、分かりやすいように説明をさせていただく。ここ(ホーム)ではひとりではなく、私たち職員がいつもそばにいるという姿勢をお伝えすることで、サービス開始時に持つ不安を少しでも解消していただけるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始時には時間をかけて契約内容等についての説明をさせていただくようにしている。説明時に不安なことや要望などをお話される家族が多いため、時間はかかるがひとつひとつの疑問や質問・要望に、丁寧に、分かりやすくお応えするように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 不安な点をお聞きする中で今一番必要としている支援が見えてくる場合が多い。サービスの枠にこだわることなく、要望を可能な限りに近づける努力を毎回行っている。また、何をしてほしいか？何に困っているのかを迅速に見つけ対応したいと考えているため、サービス開始時には既により多くの情報が収集されているような状態(利用前情報の収集)に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員も利用者様も、それぞれが日々役割を持つことでお互いが支え合い、ホームでの生活を送っている。たとえ小さな役割であっても「できた」「できなかった」という結果のみにとらわれないように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来て頂ける家族も多い。来所の際には長時間ホームで過ごしていただけるかたもいらっしゃり、職員と雑談したり、食事作りのアドバイスや食器洗いを職員と一緒にして下さることもある。利用者の生活を職員・家族が協力して支え合っているということを実感する場面がある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前の生活から引き継げる部分に関しては、なるべくご希望に添えるように努力している。家族以外でも昔からの知人などが定期的に訪ねてこられるかたもあり、職員も関係性の理解を深めながら交流が途切れないように支援に努めている。 (外部評価) 友人や以前の職場の同僚、さらには、退居した方のご家族が仲良くなった利用者を訪ねて来ている。職員はお茶を用意したり、利用者と一緒に見送る等している。ご家族と手紙のやり取りをする利用者には、利用者の状態をみながらサポートしており、現在は、何を書くか相談しながら代筆している。週1回来る移動パン屋は、利用者の好きなパンを取り置きしてくれている。行きつけの床屋、うどん屋に出かけることを支援している事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士が別ユニットである場合でも、度々お互いの行き来が自由に出来るように支援している。また、ユニットを意識することなく、ホーム全体での交流が図れるような機会を増やしている。また、利用者や職員同士がかかわりを持つことができるように努め、ホーム全体をひとつの「家族」と捉え、支え合っているように意識している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後の家族様が度々ホームを訪ねてくださり、職員との交流が継続しているケースがある。また、別の施設へ転居された後などは、様子を伺いに転居先の施設へ職員が面会に行くこともあり、転居先の施設職員との情報交換を行いながら退所後も支援を継続している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で「○○がしたい」「○○してほしい」と様々な願いが聞かれる。ひとりひとりの思いを受け止め、実践につなげていけるように努めている。意思表示の困難なご利用者様に関しても、本人だけでなく家族の希望や意向を取り入れながら支援に結び付けている。	
			(外部評価) 日々のかかわりの中で利用者の表情から思いを推し量ったり、会話を記録して個々の思いや意向の把握に取り組んでいる。夜間、職員が居室を訪ねると利用者が「ちょっと休んでいったら？」と声をかけてくれるような時には、職員はゆっくり利用者のお話を聞くようにしている。法人独自の「認知症対応型共同生活介護個別アセスメント」様式を用いて利用者の生活の現況について情報を集めており、介護保険更新時等に見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅生活の情報は担当であったケアマネジャーより情報収集したり、入居後にも疑問点があれば連絡を取り合いながら経過の把握に努めている。また、本人から発せられた言葉にも注目し、親兄弟のことや昔話(例えば兄弟親戚の名前、飼っていたいたペットの名前、住んでいた地名など)は雑談の間にもこまめにメモに取るなどして、そのかたの情報として職員間で共有して支援に役立てている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日により心身状態や有する力を発揮できる場面は変化するため、申し送り等で職員間の情報共有を行い、現状の把握ができるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) カンファレンスを開催してモニタリングの結果を通じて介護計画書の作成を行っている。本人の思いや希望をお伺いして計画書に反映できるように努めている。課題については、「今できる事を生かす」と同時に「これから出来そうなこと」を予測して積極的なプランになるように作成している。</p> <p>(外部評価) 今年度、施設長・管理者・計画作成担当者の交代があり、介護計画等の記録物を見直した。介護計画は、利用者やご家族の意見をうかがい、3ヶ月ごとに職員全員で話し合っって評価をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録にはその日にできたこと・できなかったことを記入するようにしており、カンファレンスの際には参考にして介護計画書の見直しを行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族との外出や病院受診なども、職員の同行があったほうがよい場合にはいつでも対応できるようにしている。また、突発的なニーズにもできるだけ応えることができるように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 防災に関しては今年度より地域自治会との連携が図れるように運営推進会議を通じて協力体制を整えつつある。8月の納涼祭には聖カタリナ大学の学生さんがボランティアに来られ、9月の敬老会には北条幼稚園の園児が敬老会の慰問に、また10月には北条北中学校職場体験学習の受け入れを行うなど、年間を通じて地域資源を活用しながらお互いが支え合える関係作りを行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の希望に添えるように、入居前には必ず今後の主治医についての相談を行っている。今までの主治医を変えることなく引き続き受診ができるようにしたり、主治医を変更する場合でも医療機関との連携を図り、スムーズに主治医が移行できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 半数以上の利用者が、協力医に診てもらっている。週1回は医師・看護師が来て体調管理をしてきている。年4回は血液検査等を受けている。以前からの主治医に診てもらっている方もあり、職員やご家族が受診に付き添っている。診察時間内の急変時は、それぞれの主治医に連絡し指示を仰いでいる。夜間は協力医療機関の看護師に連絡し、必要に応じて往診を受けている。医師は、診察以外でも事業所に立ち寄り、利用者とおしゃべり等してくれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週に1度、田辺医院より看護師が訪問して日々の健康管理や相談に応じていただいている。訪問前には職員が事前に個々の1週間の体調について情報収集を行い、看護師との連携を図っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院の際には医療機関との連携を図るとともに、本人・ご家族の意向を医療機関にお伝えできるように努めている。「早期に退院したい」といった希望がある場合には、入院先の医療機関や主治医等に相談し、ホームでの受け入れ体制を整えて安心して退院帰所していただけるように連携を図っている。特に、早期退院の場合には退院後のフォローには十分に注意を図って支援を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時には、重度化した場合や終末期について、ホームとしての考え方をお話しする時間を設けている。家族がその中で本人の希望・家族としての終末期の希望を話される場合もあるが、多くの場合はその時の状況や状態により決めていきたい、と希望される。入居中にも状態の変化によってはご相談の機会をこまめに持ち、主治医も踏まえて話せる機会を作り、本人・家族・ホームの方針の共有や修正を行いながら、皆が同じ気持ちで同じ方向に進んでいけるように、可能な限りの希望に添えるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 入居の際に、利用者・ご家族に事業所のできることも含め、看取り支援について説明している。ご家族は、「終末期になった時に、また相談させて」と言われることが多いようだ。事業所は、ご家族と連絡を取り合い医師とのパイプ役になっている。又、ご家族が宿泊できるよう準備等して支援している。看取りの経験がない職員が増えたため、看取りの学習会を行ったり、看取り経験のある職員を含めた体制を作って支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 少なくとも年に一度は救急対応についての研修を消防署を招いて行っている。特に新人職員に関しては全員受講するように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害に備えて避難訓練を定期的実施しているが不安も大きいため、今年度は運営推進会議を通じて地域のかたに今以上にホームの存在を知ってもらえるように働きかけたり、万が一の時には自治会の防災組織と連携が図れるように体制の強化を図る努力をしている。また、南海地震対策として地震・風水害の防災マニュアルの作成を行った。消防や地域住民と協力して災害に対応できるように地域との関係作りを継続中である。 (外部評価) 3月の夜間想定避難訓練では、消防署の方から「大きな声を出し意思疎通を図るように」「普段から防災についての意識を持つ事」等アドバイスがあった。自治会の自主防災組織と連携を図るため、書面での協定を検討している。自治会には今後「事業所に災害電話やAEDがあるので地域に協力できる」ことも伝えたいと話していた。備蓄は、水・乾パン、米、ドライフードを3日分程度準備している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員と利用者が近い存在になりすぎることによるプライバシーの侵害や人格を損ねる事がないように配慮している。職員は常に、利用者の人格を尊重し、いかなるときにもそのかたを否定してしまうような考えかたにならないように関わっていきたくと考えている。 (外部評価) 職員は、利用者と同じ目線でゆっくりと話していた。職員は「利用者との距離感を大切にしたい」「毎日一度は笑顔が見たい」と話していた。施設長は、食べたいものを可能な限り当日食べられるよう支援したいという考えのもと、利用者からリクエストの多いドーナツやアイスクリーム等は準備をしている。トイレにバスタオルを用意しており、背もたれに使用したり、女性には、ひざにかける等して羞恥心へ配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) どの場面においてもなるべく自己決定ができるように、個々に関われる時間を多く取りながら本人の思いを引き出せるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日のスケジュールを特に決めておらず、その日その日の時間の流れと利用者の体調や希望を考慮しながらその日の過ごし方を決めていくため、職員側の希望や決まりを押しつけるような支援をしないように努めている。ただし、一部の病院受診と入浴(同性介助)に関しては他の利用者の予定や対応する職員の兼ね合いもあり、職員側の意向をお伝えして相談させていただくことがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性であれば、カチューシャや髪止め・帽子など、ヘアスタイルを意識したおしゃれを日常的に楽しめるように工夫している。散髪を概ね1ヶ月に1回行えるように美容師に訪問していただき、希望者はホームで散髪ができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 人参の皮むきが上手なかと、ごぼうのささがきが得意なかとなど、それぞれの得意分野を職員が把握し、みなさんに活躍していただけるように配慮をしている。なかなかお手伝いが難しいかたでも、セッティングすればご自身の食事前エプロンをご自分で付けることができたり、お箸やコップを所定の位置にセットしたり、ランチョンマットを敷いたり、簡単な作業ではあるが「できること」を生かして食事がホームの皆で楽しめるように工夫している。 (外部評価) 以前は生協で半調理のものを宅配してもらっていたが、メニューがマンネリ化するため中止し、現在は法人の管理栄養士がメニューを決めて事業所で食事を作っている。調査訪問日、昼食のカレーを作っており、利用者は職員と一緒にジャガイモの皮むきをしていた。カレーが嫌いな利用者には、おにぎり、なすの煮物に代替していた。毎月、給食会議が行われており、旬のものや利用者の好きなメニューを採り入れられるよう話し合っている。誕生日には、地域の店で利用者がお好きなケーキを選び、当日配達してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 夏場には水分を多く含むスイカをおやつにしたり、水分量の多い食品を取り入れることで水分の確保を行っている。食事が減少することが多い夏場はあらかじめ7月8月の食事メニューを調整した。(食べやすい種類を増やす、少量でもカロリーが摂れるような食材や調理にする、等) 食事が極端に減少した場合にはご家族様とご相談させていただき、ホームの食事とは別にはなるが好みのものや食べやすいものを購入して臨機応変に提供させていただくこともある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 定期的に歯科検診を行い、おひとりおひとりの口腔内の状態の把握をしている。義歯はしょっちゅう合わなくなるかたがいらっしゃるが、歯科受診を嫌うご利用者様も多いため、本人・ご家族と相談しながら、臨機応変に受診したり様子観察したりして対応している。義歯の扱いが個人で難しい場合は職員が管理させていただき、洗浄や装着、預かり等の支援を行っている。一部、誤嚥の危険性があるかたに対しても、声掛けや介助にて安全にうがいやスポンジを使用した口腔ケアにて口腔内の清潔が保たれるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ声掛けや誘導を時間で決めないようにしている。排泄チェック表を参考にするとともにその人その人の様子を観察して、トイレに座るタイミングを逃さないように支援している。本人が気持ちよく排泄できること・自立に向けた支援を行うことと同時に、オムツ使用による本人や家族の経済的な負担も考慮しながら、その人その人に応じた排泄の自立に向けた支援を行っているため、排泄の支援方法は利用者により様々。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「前傾姿勢になると便意がある」等、職員で情報交換しながら排泄支援に取り組んでいる。おむつ交換の度に便が出ているような状態の利用者には、日中はトイレで排泄できるよう継続して支援し、又、ご自分で腹圧をかけるよう促し、じょじょにトイレで排便もできるようになった。利用者は「お腹がすっきりする」と喜んでいるようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取をしっかりと行うことを心がけている。運動不足の解消はなかなか難しく、できるだけトイレに座っていただき自力でいきんで排便を促せるように支援しているが、緩下剤に頼ることが多くなっている。いきむことが困難なかたにはトイレに座っていただくとともに腹部のマッサージを行ったり、便秘が続く日には牛乳をおすすめするなど、少しでも便秘の解消ができるように支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>曜日や時間は特に決めていない。その日の体調や本人の気分など、ご本人と相談しながら入浴のスケジュールを決めている。夕食後に入浴したいと希望されるかたもいらっしゃるため、夜の入浴の対応も行っている。また、基本的には同性介助にて入浴の支援を行い、気持ちよく入浴していただけるように個々に応じた入浴の対応ができるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>循環式のお風呂になっており、朝風呂、寝る前の入浴、活動後のシャワー等、希望に沿った支援を実践している。重度の方も職員二人介助で湯船で温まれるよう支援している。施設長は入浴支援について「気持ちいいと感じて欲しい」と考えており、体を洗っている間も足湯等もしている。温泉の好きな利用者の希望で、近くの温泉に出かけて、大浴場で職員と一緒に入浴したこともある。又、車椅子の方は、家族風呂を利用して支援した。海を眺めながら温泉を楽しめるため、利用者には好評のようだ。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ホールでの席は特に決めてはいないが、各自がお気に入りの席に座り休息したりしている。それぞれが安心して過ごせる場所をホーム内にお持ちである。外に出て日光浴ができない冬場などには、室内ではあるが窓辺の日当たりのよい場所で日光浴を楽しまれるかたもあり、時と場合によって気持ちよく過ごせる場所はそれぞれに変化している。また、ベッドや布団で睡眠をとることが理想的ではあるが椅子に座ったままウトウト眠る習慣のあるかたもいらっしゃる。無理にベッドで休むことは強制せず、それぞれの生活習慣を大切にしながら安眠が確保できるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診結果を記録に残し、薬の情報を含めて職員間での情報の共有を行っている。また、薬剤情報をファイルし、職員がいつでも確認できるようにして薬の目的や副作用、用法や用量が正しく理解できるようにしている。症状に大きく変化があった場合には薬の影響も考えられるため、症状の変化には十分に注意して各自の状態の把握に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの生活していく力を職員は把握して、役割や楽しみを持っていただけるように支援している。どんな小さなことでもできたことに対しては「ありがとうございます」という敬意を払って日々接している。また、その日1日の中での楽しみや喜びを感じていただけるような取り組みをその日の利用者の体調や状況に応じて考え、職員の押しつけにならないように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物に出掛けたい等の日常的な外出支援については柔軟に対応できるように努めている。計画的な家族との外出については、家族との連携を図りながらスムーズに外出ができるように支援している。 (外部評価) 毎年花見は近隣の海岸沿いの公園にお弁当を持って出かけており、釣りの好きな男性利用者と職員は、釣り竿を持参する。日常的には、近くのお地藏さんをお参りに散歩したり、重度の方は庭やベランダに出て、外の風やキンモクセイの香りに触れたりできるよう支援している。スーパームーンの日には、ベランダに出てお月見をした。利用者は新聞広告やテレビをみて外出希望があり、できるだけその日に出かけられるよう支援している。動物園や観劇に出かける時は、ご家族が利用者と職員のお弁当を作ってくれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理を各自で行うことができるように職員が支援している。小銭をご自身で財布に入れ管理しているかたもあり、週に1度のパン屋さんの訪問時にはパンを購入し、そこからお支払をするなど職員が支援しながら自由に使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠く離れたご家族からの手紙や贈り物が届くことが度々あるが、ご本人が返事を出すことができない場合でも職員が責任を持ってお返事のお手紙を代筆したり、本人に代わって電話を差し上げるなど、本人と大切な人との交流が途切れないように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 夏場のクーラー使用の際には、冷えすぎないように温度調節に十分に配慮した。立地上、東側の窓の光が朝は強すぎるので、カーテンを引き、明るすぎず暑すぎないようにしている。今年度は共用トイレや居室のクロスの張替を随時行っているが、環境の変化により混乱を招かないように、クロス選びの際には落ち着いた柄や色味を選び心地のよい場所作りを意識している。 また、共用部には季節に応じた飾り付けを行い、入居者の方々に季節を感じていただけるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、住宅街と田園を見渡せる場所に立地している。玄関横の庭に椅子やテーブルを置いており、庭を眺めたり時々、お茶を楽しんだりしている。昼食時には、神輿のビデオを見ながらお祭が近いことを伝え、利用者が楽しみにできるように支援していた。訪問調査日は、利用者の誕生会でもあり、居間では、歌謡曲や童謡を歌ったり、ケーキを食べたりしてお祝いしていた。愛犬さくらが2階ユニットで利用者と遊んでいた。餌やりが日課になっている方がいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用スペースにはソファを置き、誰もが自由にくつろげる場所を作っている。おひとりで静かに過ごすこともでき、また、仲のよいご利用者様同士で談笑の場として使っていただいたりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居の際には、新しいものを購入して準備されるご家族が多いが、なるべく馴染みの道具や使い慣れたものを持参していただけるように説明をしている。家具の配置等もできるだけ同じように配置できるように、利用前訪問の際には部屋の配置図を情報として収集し、入居後の参考にしてている。</p> <p>(外部評価) ひ孫の写真やご家族と出かけた観劇時の写真等を飾っている方もある。ご自宅から仏壇を持って来られたり、レコードプレーヤーでお好きな洋楽を楽しむ方もある。目が不自由な利用者は、「少しでもみな役に立ちたい」という思いがあり、汚物処理時に使用するための新聞を折ってくれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 車椅子のご利用者様が多いため、ホーム内は出来るだけ自走でも自由に移動ができるようにスペースを確保している。「できないこと」も少しお手伝いすれば「できること」につながることを意識し(例えば、最初に車椅子を少しだけ押せばあとは自走ができる等)、安全に配慮して見守りを行いながら、自立した生活を送っていただけるように努めている。</p>	